

学校・学びグループ

学校・学びグループの質問を始めます。

私たちのグループは、学校生活や授業がもっと充実するにはどうしたらよいか話し合いました。

このことについて、2つの質問をしたいと思います。

質問1 「ICT環境の有効活用」について

一つ目の質問は、「ICT環境の有効活用」についてです。

私たちは学校でタブレットを使用していますが、タブレットで授業に関係ない動画を見る人がいて授業で使えなくなったり、学校のWi-Fi環境が十分でなく、授業でみんなが同時に使おうとすると動かなくなることがあります。

また、基本的にタブレットは家に持ち帰れないので、いじめなどの理由で学校に行きづらかったり、不登校や入院などで学校に行けない時は授業が受けられず、授業についていけなくなります。

そこで提案です。タブレットを有効に使うために、タブレットを家に持ち帰ることを可能にして、家から授業を受けやすくしてはどうでしょうか。そうすれば、不登校など様々な理由で学校に行きづらい人が家から授業を受けることができます。また、そのタブレットにいじめ相談ができるアプリが入っていれば、家という安心できる環境で、誰にも知られずいじめの相談ができます。家に持ち帰りができるようになり、今後、デジタル教科書が充実すれば、学校で授業がある時でも教科書の忘れ物が減ると思います。

また、私たちは普段からパソコンやスマートフォンを使っていて、身近にインターネット環境があることが当たり前になっています。

そこで提案です。県内の小・中学校にeスポーツに関する部活動を作ってはどうでしょうか。eスポーツはゲームだと思う人もいるかもしれませんが、アジア競技大会の公開競技にも採用されました。また、eスポーツは考える力やコミュニケーション力などが身につく、パソコンの使い方も上達すると思います。そして、勉強に影響が出ないよう、きちんとルールを決めて守るようにすればいいと思います。

答弁（教育長）

「タブレットを持ち帰り、家から授業を受けやすくすること」についてお答えします。

皆さんが、タブレット等を自由な発想で活用し、主体的に学ぶことができるよう日常的に使える環境を整えることは、大切であると考えています。

タブレット等のデジタル機器を持ち帰ることにより、日常的に使う機会が増え、皆さんの学びが充実することに加え、学校に行きづらい人が家庭から授業を受けることができたり、学校生活の不安や悩みを相談できたりすることにもなります。

このため、県教育委員会では、タブレット等のデジタル機器を日常的に持ち帰り、家庭でも、学校の授業と関連させた活用が進むよう、先生を対象とした研修会で良い事例を紹介するなどしていますので、今後も効果的な学習につながるよう、取り組んでいきます。

なお、タブレット等のデジタル機器を持ち帰る際の具体的なルールについては、皆さんが通っているそれぞれの学校で決められていますので、周りの友達や先生方と一緒に、しっかりと話し合う機会を作り、皆さんに合った活用のルールになるよう、改善を提案してみてください。

次に、「県内小・中学校にeスポーツに関する部活動を作ること」についてお答えします。

小学校のクラブ活動や中学校の部活動は、スポーツや文化活動において、一つの目標に向かって切磋琢磨することや、年齢の異なる人と交流することを通じて、人間関係の大切さを学んだり、自分の良さに気づいたりするなど、皆さんの成長を目指して行われているものです。

また、各学校の部活動の種類については、児童生徒の皆さんの希望や担当する先生、学校の施設や設備の状況などを踏まえ、それぞれの学校のルールに基づいて決められています。

提案いただいたeスポーツは、国民スポーツ大会やアジア競技大会で実施されるなど、少しずつ認知度を高めてきており、年齢や性別・国籍・障がい等の壁を越えて、誰もが参加することができるなどの良さもあります。

一方で、コンピューターゲームを長時間行うことによる、視力の低下やゲーム依存など健康面への影響があるとも言われています。

また、eスポーツに必要なパソコンなどの機器や設備を整えるためには、費用もかかります。

皆さんも、クラブ活動や部活動の意義やeスポーツの良い点、気をつけなければならない点などについてよく考え、部活動としてeスポーツを取り入れることについて、先生方としっかりと話し合ってみてはどうでしょうか。

質問2 「学校生活の充実」について

二つ目の質問は、「学校生活の充実」についてです。

まず、「様々な国籍の子供たちと仲良くする取組」についてです。

私は小学生の頃、海外に住んでいました。当時通っていた現地の学校にはいろいろな国から来た子供たちが大勢いましたが、現地の子供たちが優しく話しかけてくれたおかげで、私は自然と環境に慣れ、国籍に関係なく仲良く過ごすことができるようになりました。

令和3年度に県内で日本語指導が必要な外国籍の児童・生徒は730人であり、現在ももっと増えているのではないかと思います。

こうした外国人児童・生徒に対するスムーズな受入れ体制や日本語教育も必要ですが、私たちがもっと異文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを取ることができれば、外国人児童・生徒もだんだんと日本の生活や学校に慣れてくるのではないかと思います。そのためには、日本人と外国人の児童・生徒と一緒に学び、多様性を受容する環境づくりがとても重要だと思います。

そこで提案です。県内の小・中学校と海外の学校の間で姉妹校を結んで、姉妹校の児童・生徒と交流できる授業や海外の文化に関する遊びや行事等を導入してはどうでしょうか。外国の人との交流を通じて、私たちはその国の文化や風習を知るだけでなく、今まで常識だと思っていたことが常識ではないと気づくきっかけにもなると思います。こうした経験を通して、私たちは身近にいる外国人児童・生徒とも積極的にコミュニケーションがとれるようになり、相互理解が深まると思います。また、将来、私たちは外国の人と一緒に仕事をしていると思うので、今私たちが外国の子供達と関わることは、将来、外国の人を理解するうえで大きな効果をもたらすと思います。

次に、「学校給食」についてです。

私の学校では、苦手で食べられないおかずがあったり、牛乳を飲むと気分が悪くなる友達がいて、毎日のように給食が余っています。

本当ならば、生産者や調理をしてくれる人などに感謝して残さず食べないといけな
いののに、いつもたくさんの食べ残しがありとても悲しくなります。

平成25年度の推計では、学校給食の児童・生徒一人当たりの食べ残しは年間7.1kgで
した。1クラスが30人だとすれば213kg、1学年が3クラスとすれば1学年だけで639
kgが捨てられたこととなります。

そこで提案です。給食の食べ残しを減らす工夫として、例えば苦手で食べられない
おかずを他のおかずへ変更できたり、どうすれば食べることができるようになるかを
考えて、実際に自分たちが考えた献立が提供される仕組みを取り入れてはどうでしょ
うか。

自分たちで調理方法を考えたり工夫することで、苦手だと思っていたものが食べら
れるようになったり、残さず食べようと思うようになると思います。そして給食がお
いしく食べられるようになると食べ残しが減って食品ロスにもつながると思うし、誰
もが給食の時間が楽しくなると思います。

答弁（教育長）

「海外の学校との交流」についてお答えします。

グローバル化する社会において、多様な文化と価値観を持った人たちと積極的にコ
ミュニケーションをとることは、広い視野から海外の国のことを知り、自分が住んで
いる地域のことや日本のことを考え、国際社会と向き合うことに繋がるため、とても
大切です。

このため、県教育委員会では、全ての県立高校で海外の学校との姉妹校交流を実施
することに加え、県内の中学校でも、海外の学校とのオンラインによる交流を行うこ
とを支援しています。

このほかにも、県内の小中学校においては、海外の学校と姉妹校提携を結び、様々
な交流をしたり、海外の学校と姉妹校提携を結んでいる近隣の県立高校と一緒になっ
て、海外の学校と交流を行ったりしている学校もあります。

今後も、皆さんが異文化に触れたり、他国の人々と交流したりする機会を充実させ
ることができるよう、私たちもしっかり応援していきたいと考えています。

次に、給食の食べ残しを減らす工夫について、お答えいたします。

学校給食を残さず、おいしく、楽しく食べることは、とても大切なことだと思いま
す。

学校給食は、栄養教諭や学校栄養職員さんたちが旬の食材を活用したり、味付けを工夫したりしながら、児童生徒の皆さんが食べやすく、栄養バランスの取れた献立を考えています。

児童生徒の皆さんが自ら考えた献立を提供する給食（リクエスト給食）の提案についてですが、例えば、総合的な学習の時間で、生産者の方からの声を聞いて地場産物を活用した給食メニューを自分たちで考え、実際に、学校給食で提供する取組を行っている学校があります。

また、体質やアレルギーによって食べることができない食材については、家庭からのご連絡を受けて、取り除いて提供しています。

県教育委員会としては、それぞれの学校が行っている様々な学校給食についての取組を、他の学校にも紹介していくので、皆さんも日々の生活の中や授業などを通じて、食べ物を大切に、感謝の気持ちをもって食事し、食べ残しを減らすよう、一緒に工夫していきましょう。